

3 課題解決のための施策・誘導方針(ストーリー)

これまでのまちの変遷、都市機能施設の立地状況、これからのまちの活力を生み出していく計画を踏まえ、課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）を以下のとおりとします。

まち全体の活力維持に係る誘導方針

- ・今後の人口減少を踏まえ、各拠点の充実や公共交通の充実により、市民が住み続けたと思う居住環境を持つまちの形成を図ります。
- ・各拠点を利用しやすい公共交通軸で結び、誰もが円滑に市内を移動できる環境を確保し、まち全体の活力を維持します。
- ・産業拠点などの従業者が市内に定住し、職住近接を可能とする良好な住環境を整えます。
- ・空家の発生を抑制していくため、現存建物の更新や居住者の世代交代を図ります。

3つの鉄道駅を中心とした拠点に係る誘導方針

- ・若葉駅周辺（中心拠点）は、鶴ヶ島市の玄関口として、民間活力を活用した都市機能の充実を図ります。
- ・鶴ヶ島駅周辺（地域拠点）は、周辺地域のニーズや産業拠点への通勤者のニーズに対応した都市機能の維持充実を図ります。
- ・生活拠点（一本松駅周辺）は、沿道に立地する都市機能施設や鉄道事業者などと連携を図りつつ、周辺の日常生活サービスを担う機能の充実を図ります。

行政拠点および産業拠点に係る誘導方針

- ・行政拠点は、市内各地からのアクセスの利便性を活かし、市街化調整区域の無秩序な開発を抑制しつつ、旧庁舎跡地の活用による公共施設の再編など、公共公益機能の維持充実を図ります。
- ・産業拠点は、埼玉県産業をけん引していく拠点として、圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺の計画的な整備を進めます。また、整備の波及効果、広域交通の要衝としてのポテンシャルを活かし、新たな企業立地の促進、就業者などへのサービス機能の充実、運動公園などを活かした交流機会の創出や、拠点内での健康づくり、スポーツ機能の整備を図り、複合的な機能を持つ、これからの鶴ヶ島市の都市活動をけん引していく拠点の形成を目指します。